

平成27年2月

## 岡田健作 学位論文審査要旨

主査 富田修平  
副査 清水英治  
同 千酌浩樹

### 主論文

Effect of clarithromycin on the expression of UL16-Binding Protein 2 in human cells

(クラリスロマイシンのヒト細胞におけるUL16-Binding Protein 2発現への影響)

(著者：岡田健作、千酌浩樹、高田美也子、山口耕介、牧野晴彦、北浦剛、中本成紀、  
山崎章、井岸正、鰐岡直人、清水英治)

平成27年 Yonago Acta medica 掲載予定

### 参考論文

1. A new rapid method for detecting epidermal growth factor receptor mutations in non-small cell lung cancer

(非小細胞肺癌における上皮成長因子受容体変異の新たな迅速検出法)

(著者：高田美也子、千酌浩樹、松波馨士、小谷昌広、阪本智宏、橋本和宏、  
中本成紀、岡田健作、北浦剛、松本慎吾、倉井淳、山崎章、井岸正、  
鰐岡直人、清水英治)

平成27年 Oncology Reports 33巻 1040頁～1048頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、ULBP2を低発現もしくは高発現する2種類の細胞株を用い、マクロライド系抗菌薬の一つであるクラリスロマイシンのULBP2発現および、そのsheddingを行う酵素であるADAM10、ADAM17への影響を、real-time PCR法、flow cytometry法、ELISA法などを用いて検討したものである。その結果、クラリスロマイシンはULBP2とADAM17の遺伝子発現を誘導するほか、ADAM17の活性を低下させることにより、NKT細胞などを活性化する細胞表面ULBP2の発現を誘導し、一方でNKT細胞などの活性を低下させる可溶性ULBP2は減少させることが明らかになった。本論文の内容は、マクロライド系抗菌薬の抗菌活性とは異なる緑膿菌排除作用の新たな機序を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。